国際観光学科 2年　後期　専門基礎科目／専門科目

1．インターン実務英語実践演習

2．海外インターン実習

3．海外インターン実習事後指導

国際観光学科

科目名: インターン実務英語実践演習					担当教員 氏名: 齋藤 望、齋藤 ティム
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件)必修／選択	備考
1	2年次	後期	専門基礎科目	演習	必修	

実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 海外での経験を最大限に活かすとともに、インターン中の現地指導社員とも連絡を密にとる中で適切な指導を行う。

授業科目の学習教育目標の概要:	キーワード
オーストラリアインターンの内、事前に各人設定の英語実践目標に照らし合わせて、業務や現地経験を通してより実践的なビジネス英語の習得をする。さらに本学からの担当教員による指導を行う中で、さらに効果的な演習になるような目標の見直しを行う。 特別措置による国内インターンの場合も同様だが、加え、オーストラリアでの英語の実践経験を補うための追加英語学習(特にSpeaking)の強化を行う。	観光英語、コミュニケーション力

授業における学修の到達目標

学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)	自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) 1、2、3、4、5、8
B 専門的技術	社会貢献・自己実現に技術が活用できる。
D 問題解決力	問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。
E 自己管理力	自らを律して行動できる。
F チームワーク・リーダーシップ	他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト: %	レポート: 35 %	発表: 35 %	実技試験: %	その他: 30 %

特記事項:インターン先の現地指導社員とのヒアリング、指導教員としての毎日の連絡の中で成績評価を行っていく。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク (プレゼンテーション) (実習、フィールドワーク)

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:
テストなどは実施しない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:
課題提出後に、個別にフィードバックを行う。

授 業 計 画	準備学習(予習・復習等) 学習内容	学習に必要な時間(分)
①イントロダクションおよび目標設定	個人目標設定	60分
②実践ビジネス英語(Listening)I	指摘事項のReview	60分
③実践ビジネス英語(Reading)I	指摘事項のReview	60分
④実践ビジネス英語(Speaking)I	指摘事項のReview	60分
⑤実践観光ビジネス英語(Speaking)I	指摘事項のReview	60分
⑥実践観光ビジネス英語(Speaking)II	指摘事項のReview	60分
⑦実践観光ビジネス英語(Speaking)III	指摘事項のReview	60分
⑧実践観光ビジネス英語(Speaking)IV	指摘事項のReview	60分
⑨実践観光ビジネス英語(Speaking)V	指摘事項のReview	60分
⑩実践ビジネス英語(Listening)II	指摘事項のReview	60分
⑪実践ビジネス英語(Reading)II	指摘事項のReview	60分
⑫実践ビジネス英語(Speaking)II	指摘事項のReview	60分
⑬実践ビジネス英語(Speaking)III	指摘事項のReview	60分
⑭実践ビジネス英語(Speaking)振り返り	指摘事項のReview	60分
⑮まとめ	指摘事項のReview	60分

使用テキスト: なし	その他参考文献など:

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):

国際観光学科

科目名: 海外インターン実習	担当教員 氏名: 齋藤 望、鷹西 恒、米田 晶、齋藤 ティム

単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件)必修/選択	備考
8	2年次	後期	専門科目	実習	必修	

実務経験を用いてどのような授業を行っているか:	過去の海外インターン派遣経験や、オーストラリア現地企業の実態を踏まえたうえで、学生の成長に最も効果的な授業を行う。

授業科目の学習教育目標の概要:	キーワード
観光産業界の各分野における実践活動を通じて、顧客とは何か、仕事とは何かについて考え、また自らの強み、弱みに気づき、人間的な成長を期するために実施する。 具体的には、観光先進国オーストラリアでの6ヶ月間にわたる実習を行う。実習先は 旅行会社、ホテル、国立公園などで、様々な業界の実態、将来に向けた方向性についても学ぶ。また事前指導において設定した個人目標に対する自己評価、指導社員評価、教員評価を日常的に実施する。実習終了時には、現地指導社員、指導教員による総括評価を受ける。実習の目標は、①人間として成長する、②海外で働くことを理解する、③英語力を高める、である。	

1

学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)	自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)	1、2、3、4、5、6、7、8、9
B 専門的技術	社会貢献・自己実現にインターン実習で得た技術が活用できる。	
D 問題解決力	インターン実習での問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。	
H コミュニケーション力	言語や身体を用いて自己・他者に理解を深めコミュニケーションができる。	

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト: %	レポート: 50 %	発表: %	実技試験: %	その他: 50 %

特記事項:評価は、個人の自己評価およびインターン先企業の指導社員による評価とする。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション (実習、フィールドワーク)

テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:テストはない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:指導社員との定期連絡やリポートにより課題の解決を図る。

授 業 計 画	準備学習(予習・復習等) 学習内容	学習に必要な時間(分)
①イントロダクション:インターンシップについて	現地企業社員の指導の振り返り	授業全体で240時間
②オーストラリアインターンシップ実習		
③オーストラリアインターンシップ実習		
④オーストラリアインターンシップ実習		
⑤オーストラリアインターンシップ実習		
⑥オーストラリアインターンシップ実習		
⑦オーストラリアインターンシップ実習		
⑧オーストラリアインターンシップ実習		
⑨オーストラリアインターンシップ実習		
⑩オーストラリアインターンシップ実習		
⑪オーストラリアインターンシップ実習		
⑫オーストラリアインターンシップ実習		
⑬オーストラリアインターンシップ実習		
⑭オーストラリアインターンシップ実習		
⑮まとめ		

使用テキスト: なし	その他参考文献など:

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
コロナなどの外部要因の影響も鑑み、オーストラリアでのインターンシップ実習の期間を設定する。また、基本的には全員オーストラリアでのインターンシップ実習になるが、ワーキングホリデービザ取得などの条件により渡航が難しい学生については、特別措置(国内インターンシップ実習)を設定する。インターンシップ実習(オーストラリアおよび国内)の内容については、コロナの影響や外部要因もあり、変更されることがある。インターンシップ実習を通して、楽しい経験だけではなく、時には心が折れそうになることもあるかもしれないが、それらの様々な経験が自分の人間力を何倍にも大きくしてくれるだろう。ぜひポジティブに捉え、いろいろと主体的にチャレンジをしよう!

国際観光学科

科目名: 海外インターン実習事後指導					担当教員 氏名: 齋藤望、鷹西恒、米田晶、齋藤ティム
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件)必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門科目	講義	必修	

実務経験を用いてどのような授業を行っているか:	コロナ禍によりオーストラリアと日本国内に分かれての実施となるが、各教員の海外経験、観光業従事経験を十分に発揮して臨場性を持った授業とする。

授業科目の学習教育目標の概要:	キーワード
インターンシップ終了後、4日間の集中講義で振り返りを行う。具体的には、事前に設定した自らの目標に対する、成果と反省をまとめ、グループディスカッション、指導教員、インターンシップ先の指導者等の指導を受けながら自らの卒業後の新たな目標設定を行う。	強味、弱みの把握、進路、将来設計、新たな目標設定

授業における学修の到達目標

学修教育目標(卒業認定・学位授与の方針との関連)	1、2、3、4、5、8
C 論理的思考力	情報、知識、経験を複眼的、論理的に分析し、表現できる。
D 問題解決力	今後の生き方について、問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。
H コミュニケーション力	言語や身体を用いて自己・他者に理解を深めコミュニケーションができる。

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト: %	レポート: 50 %	発表: 50 %	実技試験: %	その他: %

特記事項:2月3日～8日までの集中講義

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:インターン実習の総括レポート作成、その発表

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:発表の後、指導教員、学生によるディスカッション。

授 業 計 画		準備学習(予習・復習等) 学習内容	学習に必要な時間(分)
①【齋藤・鷹西】PROGテスト実施	1月16日3限	PROGテスト実施準備	60分
②【齋藤・鷹西】PROGテスト実施	1月16日4限	PROGテスト実施準備	60分
③【米田】TOEIC IP テスト(L&R)	2月3日1限	TOEIC文法問題を復習する	60分
④【米田】TOEIC IP テスト(L&R)	2月3日2限	TOEIC文法問題を復習する	60分
⑤【齋藤・ティム】TOEIC IPテスト(Speaking)	2月6日1限	TOEICのSpeaking問題を復習する	60分
⑥【齋藤】海外インターン実習ふり返り(1, 2年生合同)	2月6日2限	各自が体験したインターン実習についてまとめる	60分
⑦【米田】PROGテスト結果の解説(米田)	2月6日3限	PROGテストの結果を読み込む	60分
⑧【米田】PROGテストと今後の活用法(米田)	2月6日4限	今後の能力開発と目標設定	60分
⑨【米田】海外インターン実習(国内実習)ふり返り	2月7日1限	国内実習ふり返り	60分
⑩【米田】グループディスカッション「2年間の成長」	2月7日2限	2年間の成長と将来やりたい100のこと	60分
⑪【ティム】総括	2月7日3限	2年間の英語の成長を振り返る	60分
⑫【米田】総括	2月7日4限	将来の夢を語ろう	60分
⑬【鷹西】総括	2月8日1限	2年間の学習を振り返る	60分
⑭【齋藤】総括	2月8日2限	将来の人生設計を考える	60分
⑮【齋藤・ティム】TOEICIPテスト(L&R)結果とフィードバック	2月8日3限	TOEICの結果を読み込む	60分

使用テキスト: なし	その他参考文献など:

受講上の留意点